

令和6年度 優秀映画鑑賞推進事業

★★★ 第23回 ★★★

市民会館 名画劇場

日本映画史を代表するスターで監督として手掛けた作品も近年世界的注目を集める、下関出身・デビュー100年を迎える田中絹代の主演作と監督作を紹介。

2024年 9/20(金)・21(土)

下関市民会館 大ホール

鑑賞料 全席自由 1日券 500円

上映スケジュール

20日(金)	10:00~11:50 「乳房よ永遠なれ」
開場9:30	13:00~15:16 「西鶴一代女」
	15:30~16:40 「簪」
21日(土)	10:00~11:50 「乳房よ永遠なれ」
開場9:30	13:00~14:37 「恋文」
	14:50~17:06 「西鶴一代女」

【注意事項】 昼食・飲み物は持参可能
※ただしホール内は飲食禁止のため、大ホールロビーをご利用ください。

チケット発売日 8月1日(木) ※発売初日のみ、窓口販売10:00~、電話予約・オンライン購入13:00~

プレイガイド 下関市民会館、ドリームシップ、下関市民会館オンラインチケット

下関市立近代先人顕彰館(愛称:田中絹代ぶんか館)では、名画劇場の上映作品に関連した台本等の展示を実施しています。この機会にぜひ田中絹代ぶんか館(田中町5-7)にも足を運んでみてください。

●主催：公益財団法人下関市文化振興財団、国立映画アーカイブ ●特別協力：文化庁、一般社団法人日本映画製作者連盟、全国興行生活衛生同業組合連合会、株式会社KADOKAWA ●後援：下関市、下関市教育委員会、下関市文化連合会



お問合せ

公益財団法人 下関市文化振興財団 TEL.083-231-6401

ホームページ … <https://scpf.jp> X・Instagram 「下関市民会館」「ドリームシップ」公式アカウント更新中!



上映作品のご紹介

日本映画史を代表するスターで監督として手掛けた作品も近年世界的注目を集める、下関出身・デビュー100年を迎える田中絹代の主演作と監督作を紹介。

簪

1941年 松竹(大船)
白黒/スタンダード/モノラル/70分



【スタッフ】

原作 井伏鱒二
脚本 長瀬喜伴
監督 清水猪助
撮影 猪俣中
録音 浅井木
美術 本木

【出演者】

恵美 田中絹代
先生 江利チエミ
安ん 先生 田中絹代
人 先生 田中絹代
郎 先生 田中絹代
主 先生 田中絹代

【解説】

井伏鱒二の短篇を映画化。山梨県下部温泉を舞台に、若いふたりの出会いを描く。普段は東京で愛人として囲われた生活を送る恵美(田中)は、自分が湯船に落とした簪で傷病帰還兵・納村(笠)に足のけがをさせてしまう。恵美は納村の歩行練習を手伝いながら、温泉に逗留することに。納村をはじめ、口うるさい先生、妻の意見に頼りきりの若旦那、おじいちゃんと一緒にきた夏休みの小学生兄弟など、個性的な宿泊客たちの温かい交流のなかで、恵美は自らの人生を見つめなおす。温泉地ののんびりとした空気を見事に表現しつつ、日中戦争勃発後の情勢や、男性に囲われて生きる女性の置かれた立場など厳しい現実も描きこみ、情緒と現実、親密さと孤独といった正反対の感情が見事に共存する清水宏の代表作の一本。田中絹代の繊細な演技が作品により一層の深みを与えている。

西鶴一代女

1952年 新東宝=児井プロ
白黒/スタンダード/モノラル/136分



【スタッフ】

原作 井原西鶴
脚本 依田義賢
監督 溝口健二
撮影 藤野野矢
録音 藤野野矢
美術 藤野野矢

【出演者】

お春 西鶴一代女
奥勝 西鶴一代女
扇屋 西鶴一代女
お春の父 西鶴一代女
世菊 西鶴一代女
お春の母 西鶴一代女

【解説】

原作は井原西鶴の「好色一代女」である。原作の女主人公は、生来の好色から数奇な男性遍歴を重ね、封建制度の下で自由奔放な性を謳歌する女性として描かれている。映画化にあたって監督の溝口健二と脚本家の依田義賢は、女主人公の自己主張や被害者意識を極力排し、男性本位の都合で不思議な一生をたどってしまう女を、客観的に凝視する手法で描いている。社会の底辺で生きている女は、ふと入ったお寺の五百羅漢を見ているうちに、過去に出会った男達の顔を次々に思い浮かべる。そこで生まれた悲喜こもごもを静かに回想し終わると、女は何処ともなく闇の彼方へ去っていくのだった。田中絹代は十代から年老いた姿まで全身全霊で演じ切り、本作は1952年のヴェネチア国際映画祭で国際賞を受賞。以後この作品は「お春の一生」の題で日本映画を代表するようになり、フランスをはじめとする欧米各国で溝口監督は神格化されることになった。

恋文

1953年 新東宝
白黒/スタンダード/モノラル/97分



【スタッフ】

原作 丹羽文雄
脚本 木下中恵
監督 田中絹代
撮影 鈴木藤雄
録音 道斎藤一
美術 進藤誠

【出演者】

真弓礼吉
久保田直
山久路の弟
礼吉の弟
特出

【解説】

戦争から帰還した礼吉(森)は、女性たちが米兵に送る恋文の代筆業をしながら、かつて想いを寄せた道子(久我)の行方を追うが…。1924年の松竹入社後、スターとして数々の名作を生み出してきた田中絹代による記念すべき監督デビュー作。戦後、年齢による役の狭まりを感じていたが、1949年の訪米時の見聞に触発された田中は、「日頃考えていることを全体的に表現してみたい、それにはやはり監督にならなければ駄目だ」と監督になることを目指す。成瀬巳喜男の『あにいもうと』(1953)の現場で2ヶ月の助監督経験を積んで本作に臨み、映画『初姿』(1936)を監督した坂根田鶴子以来となる、物語映画の女性監督となった。戦後の厳しい現実のなかで生きる道子たち女性の姿以上に、礼吉に焦点が当てられ、いまだ良き日々の思い出と戦前の感性を捨て去ることのできない姿が、悲愴感が漂うまでに克明に描かれている。入江たか子らスターたちのカメオ出演も見どころ。

乳房よ永遠なれ

1955年 日活
白黒/スタンダード/モノラル/110分



【スタッフ】

原作 若月丘
脚本 中田中
監督 田中絹代
撮影 藤岡林谷
録音 藤野野矢
美術 藤野野矢

【出演者】

下堀堀安
城西安大
ふみ子 月丘
きぬ子 月丘
たつ子 月丘
義夫 月丘
の奥さん 月丘

【解説】

夭折の歌人・中城ふみ子の歌集に感銘を受けた田中絹代が、「演出者としての全生命を打ち込んだ作品にしたい」と臨んだ監督第3作。短歌作りで打ち込むふみ子(月丘)は、身勝手な夫に疲れ子どもを連れて実家に戻るが、乳がんに冒される。田中絹代は本作で、監督として初めて女性脚本家と組んだ。歌人でもある脚本家・田中澄江は、実話をもとに表現者としての苦悩や女性同士の繋がりを緻密にシナリオ化している。月丘夢路は、監督の熱意に応えるかのように、乳がん手術で乳房を失った女性の欲望や感情の機微を見事に表現。代表作とされる本作をはじめとして、田中絹代が監督した6本の作品は現在世界的に高い注目を集めている。